

# 市民事業等支援制度 団体による評価

## 1 ねらい

この評価シートは、貴重な水源環境保全税を財源に実施している現在の市民事業等支援制度が、その目的である「水源環境の保全・再生のための県民主体の取組の推進」に資する制度になっているかについて、県民会議委員と補助団体によって評価するためのシートです。

「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」が施行されて今年で4年目となり、現在、次期の実行5か年計画について検討が進められております。そこで、5か年計画における12の特別対策事業の一つとして位置づけられている市民事業等支援制度についても、その見直しが行われることになりました。

水源環境保全・再生かながわ県民会議では、この市民事業等支援制度をより良いものとしていくためにも、現在の制度について評価を行うとともに、皆様方のご意見を踏まえながら、県に対して提言を行っていきたいと考えております。

そこで、現在の市民事業等支援制度が、その目的である「水源環境の保全・再生のための県民主体の取組の推進」に資する制度になっているかについて、県民会議委員と補助団体の皆様によって評価を行うこととしました。

評価結果は、上記目的を達成するため、より利用しやすく、さらに水源環境の保全・再生に資する制度にするための検討に反映させていきます。

この補助制度は、県民の皆様からいただいた個人県民税の超過課税（年額約38億円）を財源として実施されており、県民の皆様に対して、事業の透明性を確保し、説明責任を果たしていくことが、特に求められております。こうした点からも、評価について、ご協力をお願いいたします。

なお、これは市民事業等支援制度のあり方について評価を行うためのシートであり、個々の団体の活動自体を評価するものではないことを申し添えます。

## 2 制度評価の視点

事業活動と利便性等から現行の制度について下記の視点から評価をお願いします。

(1) ⑤については補助を受けた事業について記入してください。

なお、県民会議委員については、モニター及び団体へのヒアリングにより評価を行ってください。

(1) 事業活動を通じた制度評価の視点

- ①活動内容に広がりや深まりがみられたか
- ②新たな関係性が構築されているか
- ③事業が継続的に展開されているか
- ④団体の自立につながっているか
- ⑤水源環境の保全・再生に資する事業か

(2) 利便性等から見た制度評価の視点

- ①利用しやすい支援制度となっているか
- ②水源環境の保全・再生に係るネットワークが構築出来ているか
- ③目的達成に資する制度になっているか

### 3 評価方法

評価の視点ごとに、評価のポイントがあります。その達成状況をA～Dの4段階(※)で評価し、記入欄に記入してください。また、記入欄にその評価をした具体的な理由を根拠となる数字とともに簡潔に記入してください。

※ A…概ね達成できている(概ね満足できる)

B…どちらかといえば達成できている(どちらかといえば満足)

C…どちらかといえば達成できていない(どちらかといえば不満)

D…達成できていない(不満)

4 事業活動を通じた制度評価

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
① 活動内容に広がりや深まりがみられたか	参加者数の増加が見られたか	A 7	20年度 49人 21年度 56名 若い参加者があるようになった
			見られた、ボランティア参加といえども、退職後の会員がほとんどで、弁当、交通費補助は、参加率の向上に顕著に現れました。
			平成20年度実績延作業日数15日延人員268名 平成21年度実績延作業日数20日延人員381名
			県の助成を受けている事業ということで信頼性があることが参加者への安心感として表れていると思います。
			水源環境保全・再生事業は、かなり危険を伴う重労働である、草刈機やチェーンソーはおろか鎌や鉞を使ったことが無い人が多いのが現実である、このような素人が機械を使えるようになり、一人前になるのには本人の地道な努力と活動する仲間の協力が必要である、イベントだけに参加する人が増えても何もならないのが現実である、幸い当法人では数は少ないが着実に活動する仲間が増えている。
		B 10	24名だった会員数はH22.3.31現在35名に増加しました。
			会員数が6名から8名に増えた。
			森林整備そりものよりも 各種体験型のイベントの方が充実していく傾向がある。
			まとまった場所の整備は、実績が日々目視でき張り合いがあるため、以前とは変わった参加数であった。
			横浜、大和市、小田原の三世帯の夫婦が取り組みに賛同して仲間と行動している。
C 2	参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりや深まりが見られたか	小学校からの依頼が増しましたが、津久井青野原小や厚木市の小学校どこの小学校も謝礼が図書券。交通費も払えず	
		大学（1年目、57名2年目43名）地元2年目22名。企業73名（数値目標を設定せず、達成率は表記できない）	
		1回あたりの参加人数が、3-4人から7-8人に増加しました。	
		21年度： 会員数：18名 特別対策事業参加者総数：171名 普及啓発・教育事業参加者：30名	
		22年度： 会員数：20名	
D 0	参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりや深まりが見られたか	他県で支部を設立して活動を開始したため 少しずつ年齢層の広がりが見られる。	
		ボランティア参加者の高齢化に伴い、参加者が少なくなっていく傾向があり、会員の若返り又新規会員が増えない。 会員の人数は10名程度である。学生が主として行う団体であり、卒業又は入学でメンバーが増減はするが、大きな増員は見られなかった。	
			子供から大人（熟年層）まで幅広い参加者がある。炭焼きなど家族単位での参加を呼びかけていることも効果が出ている。 県外から参加者がある。

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
① 活動内容に広がりや深まりがみられたか	参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりや深まりが見られたか	A 3	若い人の参加と地域の人の積極的な参加を望んではいないし、小さい子供を持つ父親や消防団活動をしている若者（若者と言っても30才～40才台が多い）に環境保全の必要性等話しているが、必要性は理解するものの、今一步の踏み込みがないのが現状、しかし、地域の若者ではないが20歳代の若者が毎回参加して活動している、作業は見習い程度で、とても一人前の活動にはなっていないが、既に1年を過ぎて、徐々に機械も使えるようになってきている。地域の方は、「活動を横目で見ている」状態が続いていたが、少しずつ正面から見ていただけるようになってきた。
		B 7	活動の中心となる世代が増えた。 我々の複合的な取り組みの企画にあたり、若い層への狙いがあり、地味ではあるが前進している。 川の自然観察会は道志川と相模川に広がりました。 指導員の回数が減少して収入面でこまっています 県外支部では全校の先生方に対する講師要請が出た。県内からは幼稚園に対する要請が出ている。 新規入会者は地域的に広がりを見せているが、年齢的に3、40歳代の入会がないので、今後は若者が活動しやすい計画を立てたい。 小学校を対象としたワークショップを展開していた為、年齢層の幅に広がりが見られなかった。
		C 8	会員外の参加者の呼びかけ（インターネットのホームページ等）に対し申し込みが無く、会員の同じ顔ぶれの参加となっている。 単年度で評価に資するほどの広がりは見られませんでした。 地元在住者が99%横浜市1名地域分布の広がり少ない。 会員の年齢層も0.数か月程度の若返りで年齢層も変化なし 大学連携により、学生以外の20～30才代の市域以外の参加者が得られたが5名と少ない。東京都・横浜市・厚木市 学習会などを開催したいのですが認定講師や認定区域ということが問題になっています。地域のボランティアの方に講師依頼などが出来れば助かります。 あまり変化がありません。 地元の会員数が増加しない。 ほぼ決まった参加者である。
		D 1	新規参加者は場所柄？か増加していない。広報的な問題もあるのか？
事業実施箇所を広がりや深まりがみられたか	A 5	学習会などを開催したいのですが認定講師や認定区域ということが問題になっています。地域のボランティアの方に講師依頼などが出来れば助かります。	
		平成20年度作業面積実績6,922㎡ 平成21年度作業面積実績6,131㎡・・笹竹藤蔓の密集地のため作業能率が減退した。苦労した分の達成感がありました。 3年目に入り第2の活動地に移動している。当該地域はH21年に設立した協議会地域であり、小規模所有者の複数の要望により実現。 法人を立ち上げた当初は活動は「点」でしかなかったが、市民事業に参加させていただき、補助していただいた事により活動範囲が「面」に広がっている。おのずと、成果が見えるようになり、地域の人たちも活動を評価していると思っている。 決まった活動エリアで計画的事業活動をしている。内容的には変化や深まりのあるものになっている。	

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
① 活動内容に広がりや深まりがみられたか	事業実施箇所に広がりや深まりがみられたか	B 9	植林地の計画エリアを5ブロックに分け、毎年1ブロックを新規に植林し、最終的には計画のブロックの植林をすべて実施できた。
			森林環境関係のイベントに参加するチャンスができた。
			森林整備としては1畝にも満たない小さなエリアです。しかし、水源地そのものの地域での活動としては意味深いと考えています。また、拠点となる施設での交流企画は広がっています。自慢できる地区となっています。
			作業意欲と満足感は、今までの活動中で一番発揮されたと感じている。
			行政(市)の森林に対する政策が未決故
			相模川大島、相模川三段の滝 道志川オートキャンプ場にも 指導員に行きました
			対象面積が広がりました。
			実施個所の隣接地域の地主から立木の伐採依頼があり、申請した地域ではないが実施中。
			地元からの要請が増えている。
			C 3
D 0			
事業メニューに広がりや深まりがみられたか	A 10	森林整備、体験教室は充実してきました。苔への着目、燻製への課題提起が新しいメニューですが、炭焼きや蔓教室と合わせてバージョンアップしていきます。	
		蒸留木酢液の製造を始めた	
		植栽樹種の検討や、手入れ手法等に対して、有識者のアドバイスを頂いた。	
		事業メニューに広がりが見えるが、我々の深まりと、関係当局者側とへだたりがある。	
		補助金の資機材購入により、作業範囲の拡大間伐本数が増えた、シュレッターによる現場処理量が増大した。これらに伴い現場景観等が良好になった。	
		自然観察会で水質検査も導入しました	
		3年目に入り第2の活動地に移動している。当該地域はH21年に設立した協議会地域であり、小規模所有者の複数の要望により実現。	
		二酸化炭素吸収促進がメインの事業であったが、新キットを開発して排出抑制にも話が及ぶこととなった。	
		基本活動のほか技術育成研修・ボランティア募集事業・間伐材の再生等広範囲に活動した。	
		「水」を用いたい3つのワークショップを展開した。今後はまた違ったワークショップを実施する予定である。	
B 5	当初は植林のみの活動であったが、鹿の食害防止の為のシカ柵の設置までメニューを増やし植林した苗木が順調に生育できていることが確認できている。		
	調査研究から普及啓発へ事業を発展させることができた。		
	参加者一人ひとりが真剣に作業技術の習得をしようとする取り組み、様々な議論も発生するなど、今後の事業に弾みが付いた物と考えます。		

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
① 活動内容に広がりや深まりがみられたか	事業メニューに広がりや深まりがみられたか		資機材の購入支援によってチェーンソー、刈払機等を購入し、作業の効率が改善した。
			市民事業の事業メニューは広がりを見せているが、単に荒廃した山林に入り、草を刈り、間伐をし、間伐材を運び出し、有効利用のための作業をし、とても「費用対効果」など望めないこのような作業だけを行って良いのか自問自答している。
		C 4	上記の理由で広がりはないが、継続すべく企画は検討している。 私たちの活動はまだ2年目ですので大まかな変更は行わず。事業を継続していくことを目標としていますので広がりはまだ今後の課題としたいと思います。 あまり変化がありません。 今後草刈のみならず、草花の定植化を進める予定
		D 0	
② 新たな関係性が構築されているか	補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか	A 3	参加団体ができた。 チェーンソーアート（間伐材利用）実演は知事の心も動かした。 先輩の団体に色々な意見を聞ける機会ができました。これも県の助成を受けている者同士としての安心感があるので互いに話しやすくなっていると思います。
		B 10	他団体との新たな関係は、残念ながら構築されなかったが、行政とのつながり、又行政からの情報が種々入手できたことは意義があった。 市との関係はあまり深まっていない。市がそうした団体との交流、協力姿勢に架けていることも要因。水源地を観光の一つとしてアピールするも、どう観光や地域を充実させていくかという施策、見通しに欠けている。自らのイベントの推進に精一杯で他団体との交流は遅れがち。今は仕方ないかなとも思える。地域での活動を通じてまずは自分達の市民事業の拡がりを追求していく。
			生産物（炭）を地域の商工会店舗で販売している
			教育委員会より依頼が来ました
			協議会を設立した。
			新たに構築された関係性はないが、従来からの関係が深化した。
			本の読み聞かせの団体とのコラボレーションを企画している。
			他団体の問合せが増加している。
		地域内の関係団体・行政機関・森林組合等との連携はできたが他地域の団体とのネットワークが計画したが不十分だった。	
		雨水の採水を行って頂いた3つの小学校との関係性を持つことができた。	
C 4	山林の整備は、多くの県民又は市民にはまだまだその重要性は理解されていないと感じています。関係行政機関はもっと広報に力を入れる必要を感じます。 交流会の参加もしましたが、相互の関係性は整備事業の主たるものとは思えません。		
	特にはありません。 公開プレゼン等を通じ、各種団体の活動状況を知ることは出来ているし、参考になる知識も頂いているが、新たな関係性の構築までには至っていない。		
② 新たな関係性が構築されているか	補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか		

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
		D 2	この制度を通じて構築された関係はない。 他団体との交流は未実施で当該自治体との関係も変化はがない状態です。
③ 事業が継続的に展開されているか	中長期的な事業計画があるか (補助終了後の事業計画があるか)	A 6	少なくとも調査研究は続けていく。 我々の事業計画は、もともと10年20年先のものであり、補助事業の有無には関係なく、進めている。 地域の課題解決と地域資源の発掘、再生によるグリーンツーリズムを計画の柱として活動を拡大する予定。 将来の構想は描いています。 広大な活動エリアがあり基本的に長期的計画を立て、内容により短期的中期的に対処しています。
		B 9	管理している植林エリア内のシカ柵設置の拡大(まだ半分程度しか設置していない)及び下草刈り等を行い、成果を見守っていく。 水原地に暮らす者として、しかも薪ストーブの会を抱え、暮らしそのものが森林整備と繋がっています。あたりまえのように森林整備を続けると共に、各種体験教室を展開していきます。 事業計画としての策定は無いが、会の設立目的や地域の環境整備には会員の大部分が理解しているため、今後も継続的に進められる物と考えます。 市との協働事業計画を市民提案を提出し市と協議中 里山用地提供(地権者)との約束上から実施地は継続して整備保全を図ります。 補助事業終了後も実施地は継続管理を行います。 ボランティアは無料という観念があるので事業経費自体の捻出も難しいのが現状です。情けないのですが補助が終了する来年は規模を縮小せざるを得ないと思います。 本会が提唱する森林環境教育の基本プログラムを全国に向けて発信する。 草花の定植化を進め、管理する。 事業計画に関しては実績報告書の通りである。
		C 3	これといって事業計画はありません。 今後の課題として考慮中。 私たちの活動は、中山間地という現在の社会構造・産業構造の中で非常にリスクの高い生活とならざるを得ず、少子高齢化が進み、「限界集落」が懸念され、地域の崩壊が差し迫った状況にある中で「地域の自然環境、生活環境の保全」を掲げ立ち上げた当法人としては、事業を継続する事が中長期的な事業計画の全てであります。また、水源環境は、「水の供給を受ける都市に暮らす人々」の協力と応分の支援が必要であり、補助の継続を切望するものですが、我々の活動は、補助にかかわらず継続していかなければならないと考えています。
		D 0	

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由	
③ 事業が継続的に展開されているか	補助が終了した場合の事業継続の見通しは立っているか	A 7	<p>事業を通じて自然保護を主な活動としており、収益金の一部を継続して、植林活動に充当させて行く。</p> <p>資金的に厳しさはあるが、自助努力する。</p> <p>我々は最低10年は計画的に実践する計画を立てている。</p> <p>協議会の構成員として、森林整備を中心とした地域資源の発見と再生を継続する。</p> <p>補助終了後も事業は継続してまいります。</p> <p>実験器具など昨年度購入したものを、会費収入で交通費や事務費等は賄える。</p>	
		B 9	<p>体験教室での参加費がメインの収入源です。炭の販売なども予定していますが、自転車操業となります。金儲けは全く考えていませんが、組織力強化のためにささやかな継続的な支援方法があっても良いのではないのでしょうか。活動、イベント支援費として年間3～5万円程度の補助をつけて市民事業をバックアップしていく体制が欲しいなあとおつくづく感じています。</p> <p>事業計画としての策定は無いが、会の設立目的や地域の環境整備には会員の大部分が理解しているため、今後も継続的に進められる物と考えます。</p> <p>市との協働で継続を検討している。</p> <p>補助事業終了後も実施地の継続管理保全作業は行います。</p> <p>小学校からは依頼しますからつづけてください。</p> <p>市環境情報センターのエコネットの輪に登録しています</p> <p>そこからの依頼も少し始まっています</p> <p>環境セミナーや活動の会場などを市や県の施設を利用することで経費の削減を考えています。今回の事業で環境センターとの交流も行えたことが役だっています。</p> <p>できる範囲でという形になると思いますが。</p> <p>毎年継続して事業を実施しているので、特に問題はない。</p> <p>水辺広場的な計画</p>	
		C 2	<p>今後の課題として考慮中。</p> <p>事業は継続していかなければならない、しかし、収入が無い中で、事業を継続する事は、特定の個人の負担を強いる中で行われることは、今までの経験から痛いほどかわっているつもりである、「非営利活動」そのものの考え方を考えていかなければならないと考えている。</p>	
		D 0		
		A 4	<p>事業の収益金を計画的に資金として充当させて行く。</p> <p>もともと、この事業がなくても我々の計画は進めており、そのための資金確保等も積極的に進めている。</p> <p>会員会費と賛助会員費を資金計画しています。</p> <p>特に、賛助会員を今後増加の努力をいたします。</p> <p>市の水辺広場管理</p>	
		B 8	<p>潤沢ではないが、最低限の活動は継続できる。</p> <p>体験教室での参加費がメインの収入源です。炭の販売なども予定していますが、自転車操業となります。金儲けは全く考えていませんが、組織力強化のためにささやかな継続的な支援方法があっても良いのではないのでしょうか。活動、イベント支援費として年間3～5万円程度の補助をつけて市民事業をバックアップしていく体制が欲しいなあとおつくづく感じています。</p> <p>生産物（炭）の販売収入で事業継続していく</p> <p>木炭化等を実施しその販売収益を活動資金の一部に当てているが十分ではない。継続的援助は必要である。</p>	
④ 団体の自立につながっているか	当補助金以外の活動資金は確保出来ているか			

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
④ 団体の自立につながっているか	当補助金以外の活動資金は確保出来ているか		民間助成金…申請中2件 予定2件 自主事業…CSR受け入れ 日大藤桜祭参加
			充分とは言えないですが。 本会提案の素材が教科書に掲載されていると共に新キットや新商品の開発も進めてきており、企業との連携も模索している。従来のおりであれば問題ない。 実験器具など昨年度購入したものを使い、会費収入で交通費や事務費等は賄える。
			主たる活動費資金の草刈は年々少なくなって、継続者がいない。 自然観察会が減少して謝礼金が見通しがたちません 平成20年度は自然観察会の依頼が30ありましたが22年度は15に減少です 今後の課題として考慮中。
		C 5	相模川水系は、水系の抱える問題、相模湖の水質の問題等を通じて県民や企業の関心が高く、保全活動を行っている団体には、企業等からの支援が相当あるように聞いている、酒匂川水系は、水質も特に問題となっていないことから、ごく限定された範囲でしか、企業の関心も無いようで、活動資金のあては無いのが現状である。この市民事業の補助金は全体でも1千万程度であると聞いているが、水源環境の必要性を水源地域で生活する人々に訴え、環境保全に向けた動機付けをするためにも、是非継続していただきたい。
			会費及び活動手当・間伐再生事業の販売収入で賄っていますが、トラックや機械は自前で会員の負担になっている。
		D 1	会員は発起人以外に少なく、発起人の出資によって資金を確保しています。先輩団体の方も資金については同様に感じていると思いますが自立しない団体は社会に必要とされていないという厳しい意見も聞きました。
	会員数は増加しているか	A 5	会員数が6名から8名に増えた。 地区人数以外に当団体のファンが着実に増えている。 個人6, 団体4 平成20年度・31名平成21年度・37名・・・6名増16.2% いわゆる、活動には参加しないが、会員として登録している賛助会員ではなく、実際活動を行う会員も少しずつではあるが、着実に増え、毎回(月2回の定例活動)には毎回10名程度の参加で活動できている。 会員数は増加傾向にあるが若年者の入会が伸び悩んでいる。
		B 4	会員は現状維持会員ではなく、イベントの参加者を増加させるという作戦を立てている。 県外支部で会員が増えている。
			残念ながら、会員は固定しており、新規申込若返り等が図れず、高齢化がすすんでおり、ボランティア活動団体の将来に危惧するものがある。 若い人の参加希望はほとんど無い、3K? 田畑の作業はそれなりの人気がある。 定年組みの参加者に期待するしかない。 少しは増えたが、まだ・・・
		C 8	年間に数名ですが、会全体の活動が、参加基準と思われます。 あまり入会する人がいません 今後努力します 退会者があり、実質増加はない。高齢化が問題である。 ほぼ決まった者で構成

評価の視点	評価のポイント	評価欄	評価理由
④ 団体の自立につながっているか	会員数は増加しているか		会員の人数は10名程度である。学生が主として行う団体であり、卒業又は入学でメンバーが増減はするが、大きな増員は見られなかった。
		D 2	大学より講演依頼あり、関心度の高い里山を中心に参加を呼びかけワーカーの年齢構成の低年齢化を進める
		D 2	ゲストで参加していただく人は居るのですが会員まで興味をもっていないのが現状です。

A…概ね達成できている

B…どちらかといえば達成できている

C…どちらかといえば達成できていない

D…達成できていない

⑤水源環境の保全・再生に資する事業が

事業区分	評価のポイント	評価欄	評価理由
特別対策事業区分 (間伐材の搬出事業を含む) 森林の保全・再生事業	水源かん養機能の高い森林に近づいているか(下層植生の回復、林内が明るくなった、皆伐など過度な整備の有無、など)	A 4	一面が篠竹で覆われたり、倒木により、地面がえぐられて、草木が生えていないような荒廃地が、少しでも改修に向かっている。 この事業の成果は、作業前・後の写真をみれば明かであり、林内に光がさし込み下層植生は回復、更に広葉樹の植栽により、近づいているとあってよい。 2年目で実感する程ではないのですが、徐々に回復傾向であると観察しています。 皆伐はしておりませんが、笹竹藤蔓の密集地は皆伐し、自然回復を観察しています。
		B 9	シカ柵を設置し、シカの食害が防止でき、苗木が順調に成長しており、今後長い年月をかけて見守っていくが、水源かん養機能が期待できる森林となるのは、間違いない。 整備内容としては自慢できる内容であるが、エリアとしては狭い部分であり何とも言えない。整備箇所を確保していくことも難しい現状もあり、ステージの確保という点では行政サイドと連携を取っていきたいと考える。こうした点から面への拡がりになっていけると思える。 林内は明るくなった。 下層植生の下層植生被覆率は最大36.5%上昇した(間伐率33%の場合) 真竹皆伐は所有者の意思であるが、林床整備後3年以内に植林予定。 林床に陽が入り、竹の子が出てきた。 授業では緑のダムの実験を行っており、生徒たちの理解は進んでいる。 植物生態学的には、下草が生え、低木、中木、高木がマント群落を形成し、出来る限り人の手の係らない潜在自然植生に近い形の植生になる事が望まれると考えるが、現実実施している作業が目指している方向は同じと考えているが、これは長期的な復元であり、短期的な活動の成果の積み重ねで到達できるものか心配な事もある。しかし、暗く荒廃した里山の林床に日光が届く様子は疲れを癒すに十分な感慨を与えてくれている。
		C 1	人工林でありながら管理放棄が著しく、まったくぬぎ林でも雑木林と化すなど手入れによっては皆伐再生もやむなしという所も多かった。人工林については概ね4割程度の間伐・枝打ちを実施、林内は見違える程明るくなった。
		D 0	山全体からすればボランティア実施できるのはほんの一部である。ただし整備の必要性アピールには大きな効果を発揮している。

事業区分	評価のポイント	評価欄	評価理由			
特別対策事業区分	(間伐材の搬出事業を含む) 森林の保全・再生事業	間伐材を有効に活用したか	A 7	自慢できる部分。薪・しいたけのほだ木・炭焼きと木は有効活用できた。しかし、金儲けにはなっていない。 炭を生産して販売している クヌギ、コナラ、杉、ヒノキなど搬出木葉ほぼ、炭焼きをする。年間5000キロの炭となり、販売することが出来た。 我々がこれまで主張してきた間伐材の有効利用、針葉植は柱か板に広葉樹は炭材に活用。 山林内市道の法面土止めに利用しました。 炭焼き、薪、竹細工等に有効活用中。 間伐材は流土の防止柵や薪にして、また、雑木は炭に焼いて大勢の人に利用していただいた。くぬぎ等は椎茸やなめこのほだ木にして植菌して、販売した。 木炭600kg ほだ木600本		
			B 3	木炭化で活用。間伐材の搬出に労力の80%以上を費やすため有効活用は限度がある。 植生保護柵設置のため間伐材を100%活用（1年目）、集材機による間伐材はふるさとづくり計画における古道（日陰道）に活用予定。竹間伐材は竹肥料として活用。 本会の実施する工作教室は間伐材を使用したものであるために活用は進んでいると考えられる。		
			C 1			
			D 1	搬出が出来てない		
				登山道整備等を実施することで、歩きやすい登山道とするなど水源環境の保全に寄与したか		
			河川・水路事業	事業実施後の河川・水路が親しみやすいものとなっているか	A 0	
					B 1	
					C 0	
					D 0	
				水辺の生態系に配慮した事業となっているか	A 0	
B 1						
C 0						
D 0						

事業区分	評価のポイント	評価欄	評価理由	
普及啓発・教育事業区分	水源環境の保全・再生の必要性を伝えるプログラム構成になっていたか	A 5	実際に水源地での活動ですので、現実理解と直結しています。	
			水辺の生き物と水質関係を小学校4年生又は3年生に指導できました	
			独学ではなく県の環境科学センターなどの資料を使い、またメンバーが講習を受けることで専門的な知識を得ることが出来た事でプログラムに生かされていると思います	
			炭焼き体験、シイタケホダ木作り体験を通じて、里山の活動および保全の必要性等への理解を深めてもらうようにしている。	
			毎年、高評価を得ている。	
	普及啓発・教育事業が多 くの人の理解を得られたか	A 6	炭の生産、販売を通して資源循環の重要性が問いかけできた。 体験教室の実施により、保全再生事業の必要性の啓発が出来た。	
			平成20年度、21年度と普及啓発・教育事業を実施させていただいたが、ともかく、現在の自然環境がどのような状態になっているか、水源環境がどのような状況になっているか、そして機械力がなかった昭和30年代以前、地域に暮らす人々はどのように自然環境を守ってきたか、色々資料を取り揃えて訴えてきたつもりであるが必ずしも体系的なプログラム構成にはなっていないかもしれない。	
			リピーターが多いことにこれは反映されているが、炭や苔、しいたけや燻製へと付加価値をつけてのイベントでないとは集まりにくい現状があります。	
				水辺の生き物と水質関係を小学校4年生又は3年生に指導できました
				6名のメンバーで30名～50名の参加をしていただけなのは理解を得ていると思います。県の助成事業ということが一番の理由だと思います。
参加者に満足していただいた。				
毎年、高評価を得ている。				
			3月末、荒廃農地を復元して栽培した「菜の花」が丘陵地一面に咲きそろそろ頃、イベントを開催している。新聞等のマスコミにも取り上げていただき、遠くは横浜、川崎方面からも多くの人々が訪れていただいております、県からいただいた「水源環境に関する資料」等をお渡しし、同時に法人の活動を説明し、理解を頂くよう努めている。	
			B 0	
			C 1	事業の実施広報が、広域にできず、参加者の獲得に、限界があった。
			D 0	

事業区分	評価のポイント	評価欄	評価理由
調査研究事業区分	水源環境の保全・再生を図るうえでの基礎データとして有用性があるか	A 2	水源の水質を客観的な数字で表すことによって、評価、比較しやすくなった。 雨水に降り注ぐ窒素化合物が原因で富栄養化が起こった例は、他件でいくつか報告されており、今回の調査データは十分に有効であると考えられる。
		B 0	
		C 0	
		D 0	
調査研究事業区分	調査研究結果が広く活用されるためのPRを行っているか	A 1	HPで調査データを公表し、森林に関するイベントにも参加している。
		B 0	
		C 1	ワークショップ等のみの報告であり、特にPR活動は行っていない。さらに有効なデータが取れた場合、PR活動を行う予定である。
		D 0	

A…概ね達成できている

B…どちらかといえば達成できている

C…どちらかといえば達成できていない

D…達成できていない

## 5 制度の利便性評価

### (1) 利用しやすい支援制度となっているか

市民事業支援補助金制度についてA～D段階の4段階で評価していただき、その評価をした理由を具体的に記入してください。その他、制度について気付いたこと等(例:概算払について)あれば、その他の欄に記入してください。  
(特にC, D評価をした項目については必ず記入してください。)

評価項目	評価欄	評価理由
申請手続	A 8	○市民業支援補助金の申請手引書の説明が判りやすく、申請書作成に有効である。その他、審査方法、補助額等運用面に問題はないと思われるが、最後に提出する完了報告書の作成に多大な時間がかかる。負担軽減の為の方法を検討できないか。
	B 7	
	C 3	
	D 0	
審査方法	A 6	○公金で賄っている以上、客観的に見ておかしくない手続が必要だと思っている。調査・研究、普及・啓発では補助期間が2年間に限定されているのが残念である。息の長い事業が大半だと思うので、3～5年は補助していただきたい。勿論、内容によっては審査で補助対象外とされることもあり得るが。
	B 8	
	C 2	
	D 1	
対象事業 (※)	A 3	○申請手続が大変。しかし、血税を利用するという点では納得はできる。しかし、もつと敷居を低くして欲しい。 ○審査方法で公開報告・プレゼンテーションは勘弁して欲しい。こうしたパワーは県民フォーラム等での団体紹介などで現地活動の報告をしてもらうなど工夫する方法もある。 ○各種団体に合わせた支援体制、内容、支援金額が用意されるべき。補助期間についても自立度をアップするために限定しているが、山は広く係わればなかなか出口はない。よって大々的な支援はしなくても継続的に応援することができ財政援助的な補助というものがあっても良いのではないかと考える。一方では、行政や他団体での助成への移行など広い視野での情報整理・提供を行って欲しいと考える。市民事業制度に参画しようとする団体であまりにも立派な団体の食い込みは防止したい。事業対象の資格、制限などを設けていく必要もあろう。本人はとっくに自立しているべき団体が名乗りを上げて、この市民事業の制度を活用する傾向は否定したい。補助額が限定されているので、小さな団体ははじかれる。
	B 3	
	C 4	
	D 3	
補助額	A 5	○この制度で森林再生活動に参加出来るようになり、市から以後の活動につながる森林ビジョン策定委員会に参加できた。 ○雑木林の整備の炭焼き活動は、資源循環を構築するには必須の作業活動であり、単に普及、啓発の手段とはちがう。 ○整備後の拡大造林補助(苗木)や地ならし備品補助も補助金対象に検討ください。 ○手続き 県の職員がわからない事は、ていねいに教えてくれる。 ○審査 審査する側とされる側に思いの違いがある ○対象事業 その通りで、森の再生など1～2年で出来ない。 ○補助額 この額が適正であり、大だすかり。 ○補助期間 かなりがん張っても余裕があり良い
	B 9	
	C 3	
	D 1	
補助期間	A 6	○手続き 申請書類が多く、また、内容も詳細の記載が負担になります。 ○審査 2年目継続申請は書類審査のみ。新規審査は現行通り。 ○対象事業 事業区分現行通り。 ○補助額 初年度と次年度は同額程度にして総額80万円 ○補助期間 5か年で結果判定は厳しい、10年単位での事業を望みます。この場合、資機材費を除き管理費は10万円程度でよいと思います。 ○手続き 初めての時やさしくおしえてほしかった ○審査 きびしいです 認められない費用が多すぎます ○対象事業 水環境問題にもっと広くして下さい ○補助額 30万にして下さい 学習に必要な品が買えません ○補助期間 だいたいよいでしょう ○その他 小学校の出前授業が多いです 講師謝礼はありません 図書券です
	B 8	
	C 2	
	D 2	

評価項目	評価欄	評価理由
申請手続	A 8	<p>○補助金制度についてはあったほうが良いと思います。</p> <p>○申請手続等についてもそれほど煩雑でもありません。</p> <p>○審査方法・補助額・補助期間については止むを得ない範囲と理解しています。</p> <p>しかしながら、事業活動を推進する中で出る間伐材等の活用についてすべて補助対象外とせず目的によっては補助対象事業にして欲しいとおもいます。例えば当活動エリアの中には活用できる資源が沢山あります。当地域はまさに水源の里・市民団体の手造りのログハウスをつくり、そこを拠点に首都圏との交流の場として事業の啓発に取り組みたいと思います。同一団体が関連事業として同時に二つの事業を同時に推進できればと、考えているところです。</p>
	B 7	
	C 3	
	D 0	
審査方法	A 6	<p>○特に問題はなく、利用しやすい支援制度となっていたのではないかと思います。特に審査方法に関しては、実際にプレゼンテーションを行い、事業の有無を判断する良い方法だと思った。</p>
	B 8	
	C 2	
	D 1	
対象事業 (※)	A 3	<p>○1次選考、2次選考の評価基準について表記して下さい。</p> <p>○審査員は異なる専門分野を網羅して構成されているのですか 専門分野、略歴等、県HP上で公開されていますか。</p> <p>○間伐材の量的有効活用は今まさに取り組むべき課題、搬出数、有効活用策及び活用率の評価基準を決めてください。</p>
	B 3	
	C 4	
	D 3	
補助額	A 5	<p>○市民事業は森林組合/林業家とは異なり団地形成の出来ない小規模林地を整備し多様な森林の価値の再生にもチャレンジしています。発足間もない団体の支援が必要であり、支援団体拡大のため予算の増額を要望します</p> <p>○補助期間は最大3年、3年間の目標、年度ごとの評価点検が必要と思われま</p> <p>す。</p> <p>○市民事業等支援制度を評価する数値目標はあるのですか。</p>
	B 9	
	C 3	
	D 1	
補助期間	A 6	<p>○申請手続は事業を実現出来る能力を見極めるのに必要な要素を含んでいると思います。審査方法も先輩や委員の現場レベルの目線で指導を受けられるので適切と思います。</p> <p>○対象事業はその他の助成の説明と関連しているのですが、大綱を読んで趣旨を解釈していても補助対象と食い違うことがあるのでケース説明などで補って欲しいと思いました。</p> <p>○補助額は現場を配慮した内容だと思います。</p> <p>○補助期間は1期2年あると年度比較や改善処置などが出来るので事業の評価がしやすくなると思いました。</p> <p>○補助額に合わせて活動している部分は否めないのですが、活動の範囲や幅を広げられないのが現状です。手続に関しては、書類作成などの負担が、本来の活動に影響している部分もあります。</p> <p>その他の審査方法や、補助期間などは、現状で良いと感じています。</p> <p>○プレゼンテーションの時間が極端に短く、十分な審査ができていないのか疑問。事前の書類審査の過程で、さらに詳細な審査が必要な団体およびランダムに抽出した数団体に限り十分な時間をかけたプレゼンテーションを行ってはどうか？</p>
	B 8	
	C 2	
	D 2	

評価項目	評価欄	評価理由
申請手続	A 8	<p>○本会の学校側からの評価は高く、継続して実施したかったが同様のテーマでは継続して実施が難しいのではないかと思い、他の補助金を模索している。 (緑の募金等)</p> <p>しかし、この補助金を利用させていただいたために弾みがついたと思っています。</p>
	B 7	
	C 3	
	D 0	
審査方法	A 6	<p>○本会としても別テーマで再度、申し込みたいと思っています。</p> <p>選考委員会が審査されている事、2次選考で説明の機会が与えられている。</p> <p>水源環境と言え、林地が対象となるが、林地の縁取りとしての耕作地が荒廃しているのが現状である、保水機能はその土地の「透水係数」が問題となるが、荒廃農地は単一植生になり、また、耕運がされないため、著しく係数が低下している、是非荒廃農地の復元も支援対象とされたい。</p> <p>資機材の購入については、限度額が50万円であるが、効率的に作業するため、資機材の購入について、限度額の引き上げをお願いしたい。また、普及啓発・教育事業は2年が限度となっているが、事業の継続性を図る上からも期間の延長が望まれる。また、50%補助ではなく100%補助が望まれる。</p>
	B 8	
	C 2	
	D 1	
対象事業 (※)	A 3	<p>○特に問題はなく、利用しやすい支援制度となっていたのでないかと思う。特に審査方法に関しては、実際にプレゼンテーションを行い、事業の有無を判断する良い方法だと思った。</p>
	B 3	
	C 4	
	D 3	
補助額	A 5	
	B 9	
	C 3	
	D 1	
補助期間	A 6	
	B 8	
	C 2	
	D 2	

※水源環境の保全に資する事業にもかかわらず、対象外となってしまう事業がないか等

A…概ね満足できる

B…どちらかといえば満足

C…どちらかといえば不満

D…不満

(2) 水源環境の保全・再生に係るネットワークが構築出来ているか

現在の制度ではネットワークの構築のため、交流会の実施や県ホームページに各団体のイベント情報・活動支援情報等の掲載を行っております。それらの制度についてA～Dの4段階で評価していただき、その評価をした理由を具体的に記入してください。(特にC, D評価をした項目については必ず記入してください。)

評価項目	評価欄	評価理由
交流会 (11月開催)	A 4	<p>○交流会の評価Cに関しては、調査研究事業の場合だとそれぞれの研究が大幅に異なる為、連携が難しいと感じた。また、交流会では調査研究事業の事業数が少なく感じたのも交流がうまくできない要因ではないかと思う。</p> <p>○公開プレゼンテーションに関しては、この補助金(税金)がどのように使われるか県民に公表できる場でもあり、県民として考えた場合でも有効であると考えた。</p>
	B 6	
	C 6	
	D 1	
公開プレゼンテーション(2次選考会、3月開催)	A 4	<p>○交流会 事業報告です もっと時間を下さい</p> <p>○プレゼンテーション もっと時間を下さい</p> <p>○県のホームページを見たと言って自宅に変な電話がきます 余計なこと書かないで</p>
	B 6	
	C 1	
	D 2	
県ホームページ	A 2	<p>○1団体が、実施報告書と次年度の申請を同一時間内に説明するが、別々にした方がより内容が明確になり、判りやすくなると思われる。</p> <p>例えば午前：報告会 午後：申請説明会</p> <p>○OHPの活用を今後検討したいと思います、現状の成果等参考に、募集内容などから、県のアドバイス(共同企画など)が得られたら、有効と思います。</p> <p>○交流会 開催すること自体が目的となっていないか。</p> <p>○プレゼンの時間が短すぎる。</p> <p>○私自身がホームページをみませんので</p> <p>○狭いところでワイワイやっても積み重なるものは無いように思います。工夫したいですね。じっくり話や整備方法を検討したり学習していく事も大切ですね。</p> <p>○2～3分の報告で何が語れるのか。あれは各団体を手玉に取り馬鹿にしています。これでけっこうなんて思ったら、社会一般はそっぽをむきます。各団体の実情を細やかに把握して、ここのアンケートの内容を各担当者と県民会議委員が把握できる体制とゆとりと意欲が無いと形式的な審査となり、不満ばかりが高まります。</p> <p>こうした思いは何度もささやいていますが、通じていますか。沼尾委員長!! よろしく頼みますよ。</p> <p>○交流会 環境科学センターの職員と調査研究に関する事で意見を聞いたのがよかった。</p> <p>○支部の立ち上げに時間を要し、ネットワーク構築まで余裕がなかった。</p>
	B 6	
	C 2	
	D 2	

評価項目	評価欄	評価理由
交流会 (11月開催)	A 4	○交流会 団体の数に対して、時間が極端に少なく他の団体との交流に使える時間は殆どない。
	B 6	
	C 6	
	D 1	
公開プレゼンテーション(2次選考会、3月開催)	A 4	○ネットワークを構築するには、年1-2回の交流会ではあまり効果がないと思われます。各団体の情報を取りまとめる団体なり人なりが必要ではないかと思ひます。情報提示だけのホームページにその役割を持たせるのは、無理があると思ひます。
	B 6	
	C 1	
	D 2	
県ホームページ	A 2	○HP大変行き届いていると評価します。  ○交流会に出席したのですが非常に楽しい雰囲気と他団体との意見交流ができたので助成対象者以外の方にももっと参加していただきたいと思ひます。 ○公開プレゼンテーションも同様にさまざまな事業を知る良い機会だと思ひます。 ○県のホームページを見るときにはアジェンダ登録したメールを見てから参照する機会が多いので、登録者制度があればもっと閲覧する回数が増えると思ひます。
	B 6	
	C 2	
	D 2	

ネットワークの構築やその他、財政面以外の支援として必要なものを挙げてください。

- ・行政の介入によるネットワークの構築は本末転倒、市民事業者が主体になるべき。
- ・申請時のプレゼンはいくまで非公開、目標達成のための課題解決について専門家を交えてマンツーマンで話し合う努力が市民事業を育てるのではないか。
- ・ネットワークの構築で大学生や取り組みに賛同してくれる人達へのネットワーク作りは、要望に応じて取り組んで欲しい。
- ・研究職などの専門家からの技術指導
- ・コーディネーター的な役割の団体または個人
- ・専門知識の勉強会
- ・本当の測定値や研究者の動向などを知りたい
- ・神奈川県が進めている事業と本会の立場が異なっているために、戸惑っている部分があります。
- ・スギ花粉が出ない杉の木植林の件です。本会はこの事業の趣旨に反対の姿勢です。この事業の前に、しっかりとした間伐を実施し、複合林化を進めるべきだと思ひます。この調整をしたい。
- ・同事業申請団体との交流(苦労話の共通点がある)接点の企画を願いたい。
- ・里山地権者と当該自治体の交流企画を願いたい。
- ・機械使用での安全衛生講習会紹介と講習補助金制度新設

A…概ね満足できる

B…どちらかといえば満足

C…どちらかといえば不満

D…不満

#### 4 事業活動を通じた制度の評価

評価の視点	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
① 活動内容に広がりや深まりが見られたか	参加者数の増加が見られたか		
	参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりが見られたか		
	事業実施箇所に広がりや深まりが見られたか		
	事業メニューに広がりや深まりが見られたか		
② 新たな関係性が構築されているか	補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか		
③ 事業が継続的に展開されているか	中長期的な事業計画があるか（補助終了後の事業計画があるか）		
	補助が終了した場合の事業継続の見通しは立っているか		
④ 団体の自立につながっているか	当補助金以外の活動資金は確保できているか		
	会員数は増加しているか		

A…概ね達成できている

C…どちらかと言えば達成できていない

B…どちらかと言えば達成できている

D…達成できていない

5 水源環境の保全・再生に資する事業か

事業区分		評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
特別対策事業区分	森林の保全・再生事業 (間伐材の利活用促進事業)	水源かん養機能の高い森林に近づいているか（下層植生の回復、林内が明るくなった、皆伐など過度な整備の有無、など）		
		間伐材を有効に活用したか		
		登山道整備等を実施することで、歩きやすい登山道とするなど水源環境の保全に寄与したか		
	河川・水路事業	事業実施後の河川・水路が親しみやすいものとなっているか		
		水辺の生態系に配慮した事業となっているか		
	普及啓発・教育事業区分	水源環境の保全・再生の必要性を伝えるプログラム構成になっているか。		
普及啓発・教育事業が多くの人の理解を得られたか				
調査研究事業区分	水源環境の保全・再生を図るうえでの基礎データとして有用性があるか			
	調査研究結果が広く活用されるためのPRを行っているか			

A…概ね達成できている

C…どちらかと言えば達成できていない

B…どちらかと言えば達成できている

D…達成できていない

## 制度の利便性の評価

### (1) 利用しやすい支援制度となっているか

市民事業支援制度についてA～Dの4段階で評価していただき、その評価をした理由を具体的に記入してください。その他、制度について気付いたこと等（例：概算払について）があれば、その他の欄に記入してください。（特にC、D評価をした項目については必ず記入してください。）

評価項目	評価欄	具体的な理由
申請手続き		
審査方法		
対象事業（※）		
補助額		
補助期間		
その他 ( )		

※水源環境の保全・再生に資する事業にもかかわらず、対象外となってしまう事業がないか等

### (2) 水源環境の保全・再生に係るネットワークが構築できているか

現在の制度ではネットワークの構築のため、交流会の実施や県ホームページに各団体のイベント情報・活動支援情報等の掲載を行っております。それらの制度についてA～Dの4段階で評価していただき、その評価をした理由を具体的に記入してください。（特にC、D評価をした項目については必ず記入してください。）

評価項目	評価欄	具体的な理由
交流会		
公開プレゼンテーション（2次選考会、3月開催）		
県ホームページ		

ネットワークの構築やその他、財政面以外の支援として必要なものを挙げてください。

(  
 .  
 .  
 .  
 )

A…概ね満足できる

B…どちらかと言えば満足

C…どちらかと言えば不満

D…不満

(3) 目的達成に資する制度になっているか

現在の市民事業支援制度が、その目的である「水源環境の保全・再生のための県民主体の取組の推進」に資する制度になっていると考えられるか、全体を通じた制度評価をしてください。また、その他ご意見等ございましたら、自由に記入してください。(この欄に書ききれない場合は、別紙にご記入ください。)